



# 奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉

## 会報100号誌記念号

2001・12・3～2010・5・1



ならやまの秋 (Photo by 弓場)

- 阿部和生  
「100号を迎えた会報誌」
- 小田久美子  
「思い出の笑顔」
- 川井秀夫  
「それは1本の電話から始まった」
- 寺田正博  
「会報のタイトル文字とロゴマーク、及び会旗について」
- 豊島すみ子  
「100号発行に寄せて」
- 樋口善雄  
「機関紙100号の記念号に寄せて」
- 弓場厚次  
「東海自然歩道、近畿自然歩道・まほろばの路」
- 資料：会報「創刊号」・写真「忍辱山」「ならやま」



# 「100号」を迎えた会報誌

奈良・人と自然の会 会長 阿部和生

**平**成 13 年 9 月 24 日 「奈良人と自然の会」が、橿原市社会福祉総合センター

で、産声を上げ、スタートしました。会報誌は、手探りの状況から設立状況を伝え更に賛同者を募るところから始められました。奈良県下ルートの「東海自然歩道の観察会」が始まり、会員の連絡・案内そして観察会報告などで内容の充実が図られました。以来営々と、各編集長の熱意の下 紙面が工夫され、今日では、写真を多く取り入れた紙面となり文化的な一面も加味する内容に変化しボリュームも増えています。

**「会」**の活動内容が、より幅広く「よりよい自然環境への取り組み」と関わるようになり会員も増加しています。「会報誌」も、内部の関連発表から外部への情報発信も加わるようになってきました。情報社会の今日でも、その重要性はますます増えることでしょう。

会員の皆様の積極的な情報発信・ご投稿を得て、より一層の内容の充実を図り すてきな紙面として共感を得るものにこれからも努力したいと思います。



## 「人と自然の会」設立

橿原で主婦ら 30 人が総会

自然環境を考えるボランティア団体「奈良・人と自然の会（略称・ネイチャー）」の設立総会が二十四日、橿原市の県社会福祉総合センターで開かれ、自然環境保全協会の指



約30人が参加した奈良・人と自然の会の設立総会

導者育成講座「大阪シニア・自然大学」の卒業生で、県内に住む元会社社員や主婦ら約三十人。

同協会理事の生駒市鹿ノ台西、川井秀夫さん(69)と NPO (非営利組織) 法人奈良ネイチャーネット理事長の高取町清水谷の谷口曉さん(56)が、「自然を楽しみながら守り育てよう」と設立を呼び掛けていた。

会合では川井さんを会長に選出後、野鳥や草花の観察会を毎月、環境問題の講演会を年に三、四回開き、自然体験・教育活動のボランティア講師を派遣するなど活動内容を確認した。

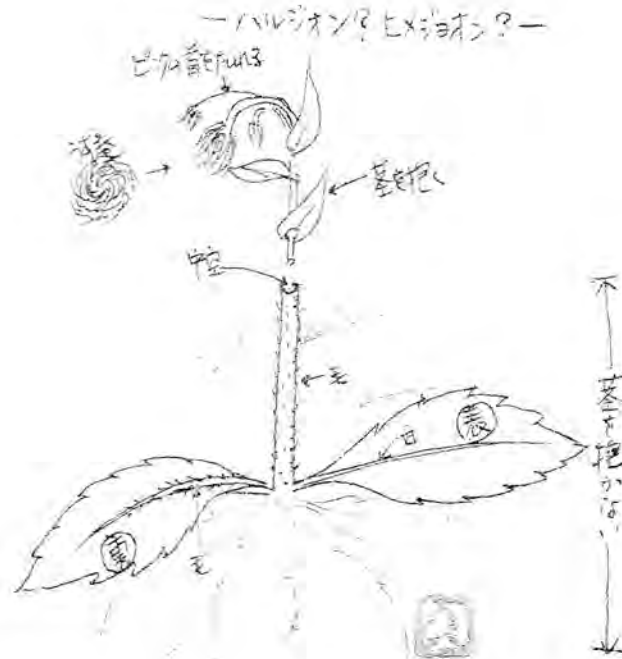
谷口さんは「シニアが主の活動。楽しみながら社会貢献したい」と話し、将来的にはNPO法人化や県内の自然環境団体のネットワーク作りにも取り組むという。参加自由。年会費三千元。問い合わせは谷口さん(0744・52・3991)。

## 思い出の笑顔

小田 久美子

20年程前、単身赴任先で覚えた主人にバーディングを教わり、会や友人と又一人でも終日鳥見三昧の日々が続きました。そして鳥だけでなく自然そのものが大好きな自分を知りました。シニア星組8期の主人を通して知った「奈良・人と自然の会」には現役の為なかなか参加出来ない主人に代わり先に参加することになりました。思い切ってやっと初参加した飛鳥駅で、前幹事の野田さんが「小田さん良く来たね~!!」と迎えて下さった笑顔は今も忘れません。前会長・豪傑川井さんのお誘いに惹かれて幹事をお受けし、鳥のことを担当することになり、この愛らしい存在を皆さんに知ってもらえるチャンスを頂いたことを大変喜んで

います。昔読んだ本をひっくり返したり、思い出を蘇らせたりする作業は私にとって至福のひと時となり、現会長の笑顔にも癒されて幹事を続けさせて頂いたことを感謝しています。初参加の日の野田さんの、あの笑顔がなかったらこの喜びにも繋がらなかったかと思うと、何度も降り降りした飛鳥駅がそれからは特別の駅になりました。ならやま保全への幹事・会員の皆さんの熱い思いと前向きな姿勢に刺激を受け、本会の会員として微力ながら私なりの「クリキンディー」を続けて行くつもりです。



H21.5.4

ロゼット状残る  
明るく緑色ハルジオンの根生葉  
3~4年前から気になっていました  
全体はハルジオンの特徴を備えるが  
葉の下はヒメジオンの特徴が見える。

そして記憶に残る笑顔の持ち主になれたらいいなあと思っております。



## それは一本の電話から始まった

前会長 川井 秀夫

「奈良・人と自然の会」の会報誌が100号の発刊を迎え、会員諸氏と共に心からお慶び申し上げます、中心的に係わられた歴代編集長の労苦に敬意を表します。

本会が発足して八年有余。初刊から今日まで改めて誌面を通読致しますと、活動行事の変遷、新旧の方々のあの日、あの時の光景が沸々と甦って参ります。思えば第一号はA4判のリーフ一枚でしたが、今や厚みも増し、随筆、コラム欄、広報記事と多彩なものとなり、コミュニティの一助として、不可欠な情報媒体が根を下ろした様に思います。

編集子より記念の寄稿を依頼され、戸惑いながら本会の誕生秘話を、私なりに書いて見ました。

あれは01'年の3月だったと思います。シニア自然大学の講座生第7期の修了式に、役職上立ち会っておりました。懇親会の席に、白面の貴公子然とした方が来られ、盃を交わすうち「私は、坂口と申します。奈良の鹿ノ台に住んでいます。卒業したら地域で樹林の調査をしたいんですが、川井さん一緒にやりませんか」と。驚いた事に私と同じ住宅地であり、急に親近感を覚え「私も常々奈良の地で、近在の方々と自然保護運動でもしたいと思っております。構想が具体化すれば是非ご一緒にやりましょう」。堅い握手で別れたものでした。

数日後。一本の電話が鳴り響きます。「私、シニア自然3期の谷口と申します。奈良の高取町で農事のボランティアをしております。もっと広汎に組織的に何かやりませんか」と。ためらいなく男一匹意気に感じて、腹を括りました。直ちに構想を練り、私の知友。谷口 暁 氏の同志。坂口 正彦 氏らと発起人会を立ち上げ、半年間骨組みを固め、同年9月。旗揚げ総会に漕ぎつけました。その後の経過はそれぞれがご承知かと存じます。

設立後、早々に会報の発行が俎上に上がり、谷口 氏の知友、甲斐野幸一 氏が初代 編集長となり、2代 小山 直方 氏。3代 勝田 均 氏に引き継がれ、現在ご夫妻共々頑張っ  
て頂いております。シニア自然大学の70に及ぶ活動団体の中で、月間の会報誌の発行は  
唯一無二の存在と自負しております。今後、更なる内容の充実に努め、会員の皆さんが楽  
しく共有できる、創意に溢れたものにしたいと念願致しております。

会員各位のご協力をお願いし、記念の結びと致します。



## 会報のタイトル文字とロゴマーク、及び会旗について

寺田 正博

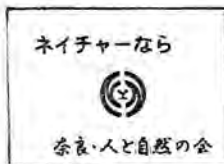
100号記念お目出度うございます。

毎月の発行に、編集、記事集めにご努力し、ご苦勞をおかけいたしました編集担当の勝田さんに厚く御礼申し上げます。有難うございました。今後ともよろしく願いいたします。

初めて私が会報に投稿させていただきましたのは、会の設立2～3年後の新年号に「松竹梅はなぜめでたいのか」の記事でした。その後は季節に対応して、自然環境、生物、主に植物と日本人の生活とのかかわりを、民俗学、こよみ等を参考にしながら数年間投稿させていただいたように思います。その間に忍辱山森林整備作業を行うようになり、忍辱山の植物等についても作業案内、報告と同時に記させていただきました。

ここで会報のタイトル文字、ロゴマークについて記します。



「奈良・人と自然の会」の文字は、書道家有本倍美さん（監査役、発足時の副会長）に揮毫していただいたものです。



会旗は、会の設立後しばらくして会旗を作成しようということになり、会員全員にデザインを募集したところ数人の方より応募出品があり、総会に於いて出席者全員の投票により、現在の会旗のデザインが決まりました。（デザインは私、寺田の案が最多投票されました。）

デザインの基本コンセプトを説明いたします。



ロゴマークは、Nature Nara の頭文字NNを半円形  にデザインし、中にいつも若々しく初心忘れず育つようにとの気持ちを込めて若葉マーク  を入れました。会報のタイトルのロゴマークもこれによります。

旗の色は「青丹吉 寧楽乃京師者 咲花乃・・・」と万葉集にあります奈良の枕詞「あおによし」より「あを（緑、古名青丹色）」にしました。文字色は「丹色（丹はやや黄味がかかった赤色、赤色には真心の意もあります）」にしました。色名については古名等種々の説がありますが、色辞典等の資料を総合判断し会旗の色としました。会旗の製作は阿部現会長によるものです。

いつまでも大事にして下さい。ありがとうございました。（尚知的所有権・著作権登録はしていません）

参考文献等：西本願寺本万葉集を底本の書。色名参考：日本の伝統色(京都書院)・色の手帖(小学館)・日本の色辞典(紫紅社)



## 100号発行に寄せて

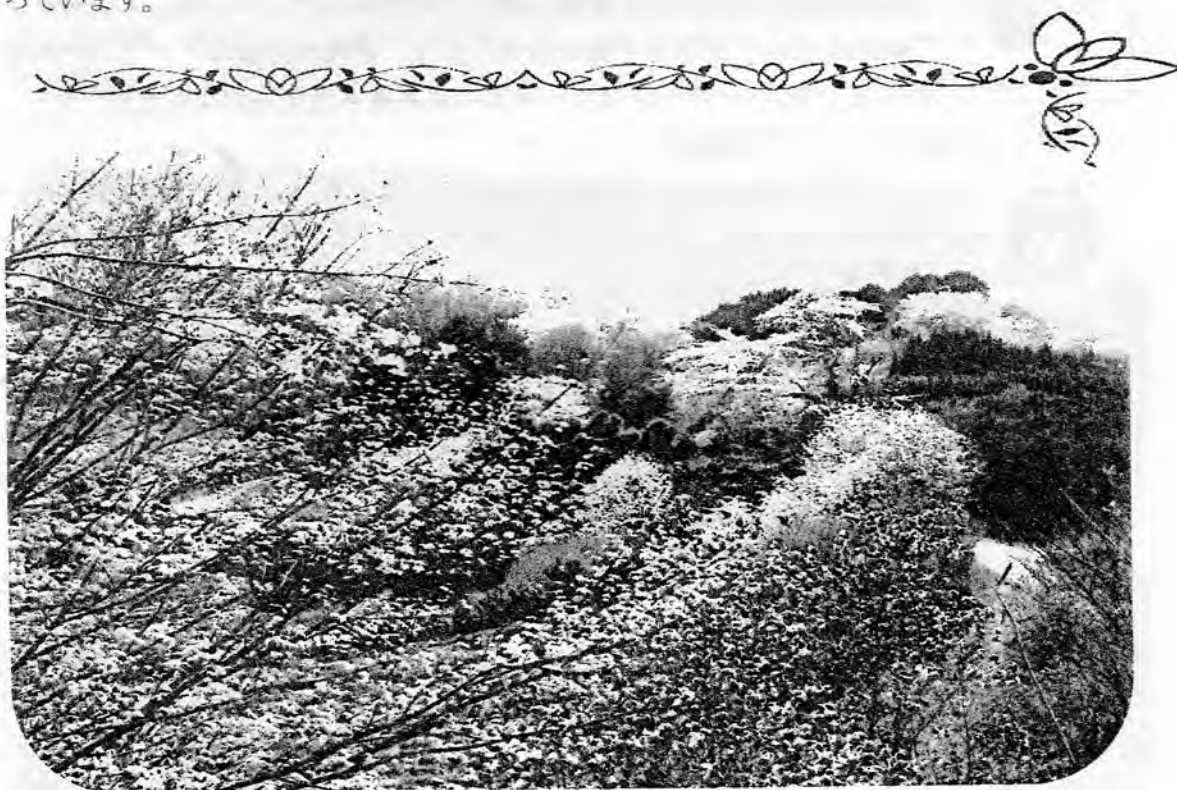
豊島 すみ子

自然を大切に、自然に心を寄せる方たちと一緒に奈良の地で活動したいとの思いで「奈良・人と自然の会」が発足してから来年で10年を迎えます。その間ずっと毎月途切れることなく発行されてきた会報が100号になりました。

例会の案内、例会に参加した感想、行事案内、地域の情報、幹事会のお知らせなど、多くの会員さんから例会には参加できなくても毎月必ず届けられる会報が楽しみですと言っただけで声に支えられ、発行され続けてきました。甲斐野さん、有本さん、勝田さんと第1号からそれぞれ編集に携わっていただいた方々に心からお礼をいいたいです。そして毎月発送事務を黙々と続けていただいた、大寺さん、野田さん、岩田さんほか多くの方々にも感謝したいと思います。最近はページ数も増え、俳句や地域情報、鳥や昆虫についてなどそれぞれのお得意の分野での投稿も寄せられるようになりました。

100号を迎えてこれからももっと身近な情報、感動したこと、会員相互の情報交換の場としてだれもが気軽に投稿できる会報誌になってほしい、編集者が困るくらいに皆さんからの投稿が増えて欲しいなあと思います。

毎月の例会、ならやまプロジェクトの活動、社会貢献活動など会員の皆さんと一緒に進めていきたい活動がいっぱいです。今はいろんな事情で活動に参加できなくても、いつか参加できる日が来るまで、それぞれの会員の気持ちをつなぐ会報であり続けて欲しいと思っています。



2009年4月例会 花の里平群を訪ねて「桃源郷」



## 機関紙100号の記念号に寄せて

樋口善雄

「少年老易 学難成。一寸光陰 不可軽。」 この漢詩は朱子学の宗家、朱熹の作詞になる『偶成』の一節である。これを家訓として私等兄弟は育てられた。

『光陰矢の如し』早いもので機関紙発行、100号記念となる。誠にメダタイ話である。そう言えば、毎月の例会も大凡は同じ記年数になりはしないだろうか？

此の例会の初期。初夏。大和青垣は法隆寺の周辺を一周したのである。小憩時の時自家薬籠朱玉の品を、「緑」さんが参加者全員に配りだした。「ミニトマト」だった。この「トマト」の美味しかったことが、未だ記憶に新しい。爾来、この味を求めて毎年の夏野菜の栽培には、必ず此の「ミニトマト」が、幅を利かしている。

どうしても例会の折の「あの味」が、出て来ないのである。毎年執念深く苗をさがした昨年、やっとの思いで「あの味」に類似した奴が採取できた。(一寸、皮が固いが)。産地「イタリヤ」の種子を、日本で発芽させた苗を購入して、植栽したのである。

10倍程の苗単価だったと記憶している。『種を制する者は、世界を制する』と言う著書を読んだことがあるが、その著に依れば、このF1から採れる種子を栽培すれば、祖父母の作物の性格に選ったモノに変化すると言う。

従ってこのF1苗は、欲しければ如何にしても買わざるを得ないのである。

『種物屋』が儲かる由縁である。

昨年、別のF1種子からの自然発芽した苗を、「なら山」の農園で植栽したが失敗した。

「トマト」には更地だったので、放任したのが致命傷だったのだろう。

病魔にも侵され、収穫量は「イマイチ」だった。

話が飛び火するが、此の「なら山の土」は「イタみ」を隠している。昨年はこの「トマト」以外にも、大蒜、葱、等が被害を被った。

反面、意外な長所も隠している。此処の「なら山水田」は秋落ちしない『深耕水田』なのだ。この土壤の良さと、人に隠れた栽培管理の手際の上手さが相俟って、昨年の豊作は齎されている。

然し、この「なら山」の風致地区環境保全ボランティアは、「人」に恵まれ「末広がり」の成果を齎し、現在は地域社会への貢献にも、大役を果たしている。

想えば、我々の此の『人と自然の会』の発足当初に『ホームヤード』を求めて奈良公園を始め圏内諸所を巡り、探査した頃からこのかた、現在の『なら山』に定着するまでに、幾余の曲折を経たことだが、都心の近傍にこの様な好場所を得た事と併せ、またこの活動を支えてくれる諸兄 諸姉にお礼を申し上げ、敬意を表する次第である会の発展を祈ります。

## 東海自然歩道、近畿自然歩道・まほろばの路

弓場 厚次

平成13年12月、本会の機関紙として創刊号が発刊された翌年の4月、幹事会で月例会とは別に定例行事として「東海自然歩道・自然観察会」が寺田正博様から提案があり、笠置から大和青垣を巡り曾爾高原に至る「山の辺ルート」の全長129kmを11コースに分ける企画が承認されました。担当はコース担当幹事と常任として寺田様と弓場が各コースの下見とMapの作成を引受け、機関紙7号（平成14年8月）に第1回の実施案内を投稿したのが始まりでした。9月7日にスタートした観察会は翌年の7月までの11か月、各コースは平均29名の参加者に4名の皆勤賞も有り、機関紙には毎月の実施案内と参加者からの観察紀行文で紙面を飾り、20号で終了致しました。第2回シリーズはコースを折返して曾爾高原を基点にした12コースに分けた企画で10月より再スタートして機関紙には引続き参加者からの詳細な観察記録が寄稿され、最終章では樋口様が機関紙35号（平成16年12月）にその思い出が投稿されました。観察会の成果として各コースでの巨樹・巨木を始め植生の綿密な調査と、同時に担当幹事様の熱意で貴重な植生Mapが出来上がりました。平成17年の4月からは「近畿自然歩道」を一本のルートに吉野・宮滝（39号）から吉野川に沿い金剛・葛城山麓を北上して生駒・高山へ。更に高見山から阿騎野・万葉の路（平成19年4月：会報63号）までの21コースが担当幹事さんのご努力で貴重な実施記録が毎月会報に寄稿されました。この二つの自然歩道の観察記録は機関紙7号から会報63号まで5年間に亘って掲載頂き、全行程の下見とMapの作成担当者としてご担当を戴いた幹事様を始め毎回報告書を会報に寄稿頂きました会員の皆さまには厚く御礼申し上げます。

（機関紙は平成18年1月発行の第48号より名称が会報に変わりました。）



東海自然歩道・自然観察会・平成14年9月7日

柳生街道のスタート



# 奈良・人と自然の会

事務所：

『奈良・人と自然の会』発足に際して

会長 川井 秀夫

9月24日、設立総会の後、役員会に於いて会長に推挙され、戸惑いながらも皆様方の期待に応えるべく、お引き受け致しました。

ルートルピッチャーが先発して、どこまで投げられるのか不安ではありますが、幸い多才なスタッフに恵まれ、また会員各位の熱い思いに支えられながら、全力投球したいと決意を新たに致しております。よろしくご支援の程お願い申し上げます。

さて、本会のネーミングが『奈良・人と自然の会』と決まりました。人も自然の一部であれば、わざわざ人を分離して表現することもない訳ですが、この100年の間、人間の所業には、傲慢・独善・による、行き過ぎた科学技術の乱用、資源の浪費、また飽食・汚染・破壊と人間社会と自然環境の共生のバランスが大きく崩れつつあります。私共はシニア・自然大学で、自然の持つ多くの事象を習得してまいりました。これらを色々な媒体を通し、次世代に伝承していく務めがあると考えております。

本会もまだ緒についたばかり、まず会員各位とのコミュニケーションを計り、着実にステップを踏んでまいりたいと念願しております。当面は仲間と共に、歴史・文化の切口を含め、野外活動、座学 等において研鑽を重ね、一歩しなく、和やかに「をモットー」に実のある企画を実践してまいります。ご理解とご支援を重なお願い申し上げます。

## お勧めイベント情報コーナー

★ 12月8日(土)、9日(日)のフィールド調査について

今後、当会活動の社会貢献事業の一環になるであろう自然観察会の開催ができないか、かつ会員のレベルUP学習の実施が可能か、年間の変化をじっくり観察できるか等を想定し、特定の場所を探すために、まず自然型公園を対象としました。調査の方法さえも学習しながらやりたいと考えますので、会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

8日： 10：00 近鉄大和郡山駅前 (車は やまと郡山城ホールの駐車場へ)

9日： 10：00 近鉄橿原神宮前 中央改札口 (車は駅前のロータリーで)

\*当日は車にて移動しますため、配車が必要ですので、事前に坂口さんへ連絡願います。

連絡先： 電話/FAX共に



# 人と自然と文化



## ネイチャーなら

### 四季紀行

11月例会「秋色・当尾の里を歩く」11/10

弓場

朝からの雨も、集合時にはすっきりと青空に変わり、参加者は川井会長をはじめに総勢10名で近鉄奈良駅より一路 浄瑠璃時に向かう。浄瑠璃時参道のベニスモモやコブシの大木に迎えられ、山門を入ると真っ赤な実を付けたサンシュユやクロガネモチの大木・古木、タイワンホトトギスの花等を観察しながら浄土式庭園を周回し、中央の「阿字池」に移る秋色真っ盛りの紅葉を堪能する。

山門を出て、石仏の道を通って岩船寺に向かう途中、普段は気にも留めないコブナグサやミンソバが美しく、赤いカラスウリやススキが良く似合う「わらい仏」や「弥勒磨崖仏」の仏様達にお参りする。

岩船寺からは、ムカゴ取りを楽しみ、柿がたわわに実る大木や、谷筋では自生の柿ノ木にカラスウリが絡み合った自然の美しさを鑑賞する。秋の色に包まれた里山の自然が残る棚田の脇を通って、無事にJR加茂駅に到着し、当尾の里観察会を終了する。

\* 本紙のタイトル(ニックネーム)を付けてください。



\* 本紙の編集員を大募集してま〜す

全員に来年の抱負を40文字以内で  
投稿していただきますので準備ください

こんなこと、あんなこと

- \* カワセミ発見: 先日、榎原神宮様の深田池にてカワセミの餌捕りを見ました。池の杭に止まり何回も小魚を上手に口先に捕獲し、おいしそうに食べていました。池にはヒドリ、コガモ、マガモがたくさん群れており、その対照的な情景に感動しました。あまりにも身近な遭遇ができますのでお勧めします。PM02時ごろ (甲斐野)

このページは、皆さんが気軽に情報交換できるところに育てていきたいので、どんなことでも結構ですどしどし投稿ください。

イラスト、絵、写真も可能ですよ。情報が多いときはページを増やしますのでまずは 甲斐野まで連絡ください。

### 事務局から連絡:

- ① 設立総会にてお願いいたしましたアンケートをまだ返送されていない方は、至急回答願います。  
連絡先: 甲斐野
- ② 当面資金不足が近づきますので、手元にあります切手や事務用品等、事務局へのご寄付をお願いいたします。 定例会時にでもお持ちください。

事務局: 谷口

編集: 甲斐野





「おじいさんは山へ  
柴刈りに」

(中畑進さん会報 87 号  
投稿より一部抜粋)

おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗たくに・・・だから私もおじいさんになった今、柴刈りに憧れます。(略) 山歩きをしますと植えっぱなしの間伐されていない「おばけ」も出るのもあきらめるような暗い森\*



\*に出くわします。「奈良・人と自然の会」が間伐・徐伐の勤労奉仕をされるというので、私も喜んで参加させていただきました。(略)

今回 5 年を一区切りとして与作の作業を休み、里山作業に集中するようです。またチャンスがあり、体が動くようであれば参加させてください。





「プロジェクト」の開始前



旧水田の笹刈り・重労働!



ある日の作業風景



椎茸栽培も進んでいます



でっかいサツマイモやで!

編集後記：\*会員みなさんに支えられて、本紙5月号で100号を迎えました。今後も一人でも多くの会員による、会員のための会報誌を目指していきたいと考えております。引き続きご協力お願いいたします。\*本紙発行に際して、執筆者のほか、明石・寺田孝・中畑の各氏には写真提供等でご協力いただきました。有難うございました。

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生